

## びわこ文化公園都市将来ビジョンの概要

### 1. びわこ文化公園都市将来ビジョンとは

びわこ文化公園都市に関わる課題や社会的な要請を踏まえつつ、多様な施設や資源を活かして、滋賀の社会成長・経済成長に貢献する場としていくため、今後のあるべき姿や、取組の方向性などについて明らかにしたもので、平成24年8月に策定した。(詳細は別添 A3 版資料のとおり)

ビジョンにおいては、「取組の進捗や社会環境の変化等を踏まえながら、10年を目途に評価し、柔軟に見直しをするべきである」とされており、10年目となる今年度、「びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会」を設置した。

### 2. びわこ文化公園都市施設連携協議会

将来ビジョンを推進していくための情報交換・共有、連携等を検討する場として、平成25年2月に、エリア内に立地する23施設・機関で構成される「びわこ文化公園都市施設連携協議会」を設置した。

### 3. びわこ文化公園都市活性化検討ワーキンググループ

エリアの賑わい創出による活性化や、策定10年後の将来ビジョンの見直しに向けた意見交換等を進めていくため、施設連携協議会に参画する23施設のうち各大学、美術館等の施設および県・地元の大津市、草津市の行政機関で構成される「びわこ文化公園都市活性化検討ワーキンググループ」を令和2年度に立ち上げた。

### 4. 参画施設および機関

(順不同)

施設・機関名		協議会	WG	施設・機関名		協議会	WG
1	滋賀県立図書館	○	○	16	メイプル滋賀工場	○	
2	滋賀県埋蔵文化財センター	○	○	17	滋賀県中央子ども家庭相談センター	○	
3	滋賀県立美術館	○	○	18	龍谷大学	○	○
4	滋賀医科大学	○	○	19	立命館大学	○	○
5	滋賀医科大学医学部附属病院	○		20	京都大学生態学研究センター	○	
6	滋賀県赤十字血液センター	○		21	滋賀県立東大津高等学校	○	
7	滋賀県歯科医師会口腔衛生センター	○		22	滋賀県営都市公園びわこ文化公園	○	○
8	滋賀県薬剤師会 (滋賀県薬事情報センター)	○		23	滋賀県立アイスアリーナ	○	○
9	滋賀県立長寿社会福祉センター 滋賀県社会福祉協議会	○		(オブザーバー)			
10	滋賀県立精神医療センター	○					
11	滋賀県立精神保健福祉センター	○		24	大津市政策調整部企画調整課	○	○
12	滋賀県立むれやま荘	○		25	草津市総合政策部企画調整課	○	○
13	滋賀県立障害者福祉センター	○		26	滋賀県企画調整課	○	
14	滋賀県立草津養護学校	○		27	滋賀県都市計画課公園緑地室	○	○
15	びわこ学園医療福祉センター草津	○		28	滋賀県スポーツ課	○	○

# びわこ文化公園都市将来ビジョン (平成24年8月)

## 1. びわこ文化公園都市の経緯

- ・昭和54年、大津市瀬田から草津市にかけての520haを「びわこ文化公園都市構想区域」に位置づけ。
- ・昭和57年、この構想を実現するため、基本計画に5つのクラスターと「緑の回廊」を位置づけ。
- ・現在は、文化、芸術、医療、福祉、教育、研究、レクリエーション等に関する施設が集積するとともに、緑豊かな住宅地も形成されている。

## 2. 背景と目的

### (1) 将来ビジョン検討の背景

- ・基本計画の策定から30年が経過し、びわこ文化公園都市の周辺環境や県を取り巻く社会環境が変化中、当都市の持つ高いポテンシャルを活かし、今後、滋賀の成長の核の一つになることが期待されている。

### (2) 目的

- ・びわこ文化公園都市に関わる課題や社会的な要請を踏まえつつ、多様な施設や資源を活かして、滋賀の社会成長・経済成長に貢献する場としていくため、今後のあるべき姿や、取組みの方向性などについて明らかにする。

### (3) 検討の進め方

- ・「びわこ文化公園都市将来ビジョン検討委員会」を設置し「①利用・交流人口の増大」、「②立地施設・機関の持つ機能の維持向上」、「③新しい価値の創造・発信の促進」の3つの視点から、立地25施設、地域団体へのヒアリング、県政モニターアンケートも実施しながら将来ビジョンの検討を進めた。

### (4) 対象範囲

- ・対象範囲は、基本計画の対象範囲に、平成6(1994)年に開学した立命館大学びわこ・くさつキャンパスを加えた範囲とした。

## 3. びわこ文化公園都市の広域的な位置づけ

- ・県内で最も人口集積が高い地域に近接。近畿圏、中京圏、北陸圏の結節点となる地域に立地

## 4. びわこ文化公園都市および周辺地域の現況

**自然条件:** 古くから人々が関わってきた瀬田丘陵の自然環境が、公園等として保全されている。

**人口等:** 周辺地域では、急速に人口が増加しており、現在も増加傾向が続いている。

**土地利用:** 周辺地域で市街化が進行。南側は農地と集落で形成される田園地域となっている。

**交通:** 高速道路、インターチェンジに隣接し、自動車による広域的な交通アクセス性が高い。公共交通によるアクセスは、JR瀬田駅、草津駅、南草津駅から路線バスが複数系統ある。

**施設等:** 文化、医療・福祉、教育・研究、レクリエーション等の多様な施設が集積している。商業関連施設は、住宅地区内、大学内を除いて立地していない。

## 5. びわこ文化公園都市の強みと課題

### (1) 強み

- ① 広域交通アクセスの充実と地理的優位性
- ② 知的資源の集積
- ③ 都市近郊に立地する良好な緑地
- ④ 福祉・医療拠点の集積
- ⑤ 文化・教養拠点の集積
- ⑥ 産業の集積

### (2) 課題

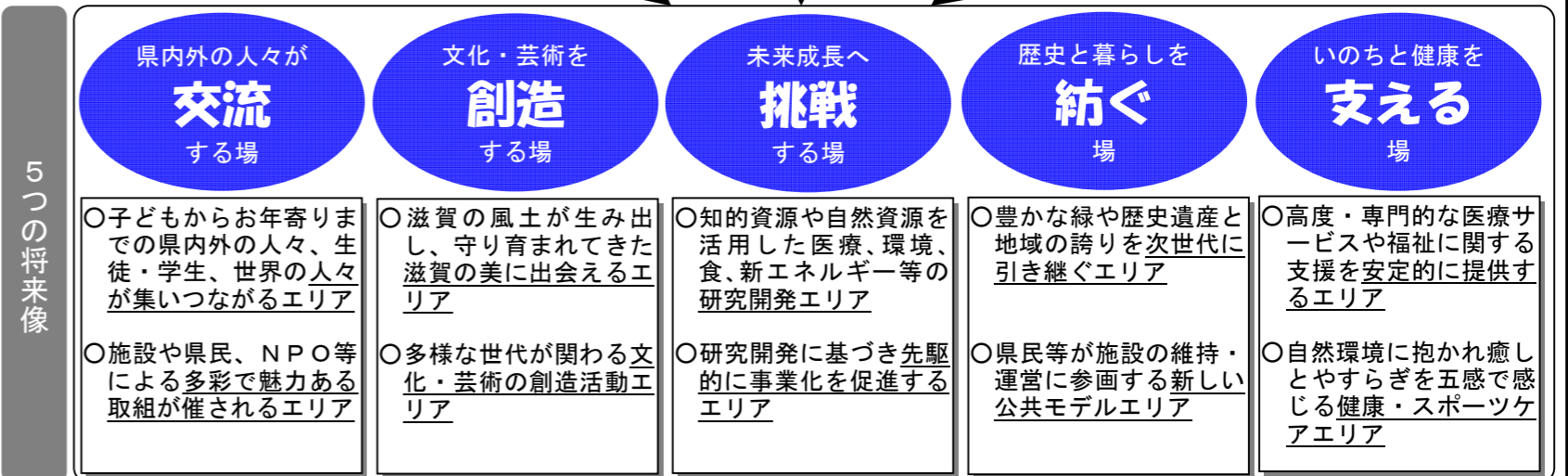
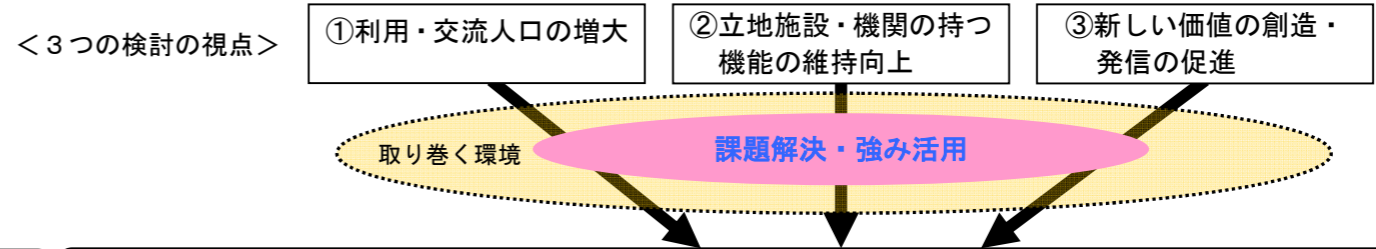
- ① アクセス上の課題
- ② バリアフリーや安全性の課題
- ③ サービス施設等の不足
- ④ PRや情報発信に関する課題
- ⑤ 連携や交流の不足

## 6. びわこ文化公園都市を取り巻く社会動向・将来の需要

- ① 人口減少と少子高齢化の進行
- ② 低炭素社会づくりと再生可能エネルギーの導入・普及に関する社会的要請
- ③ 防災に関する対策の必要性
- ④ 価値観や生活スタイルの変化と「新しい公共」
- ⑤ 産業構造の転換と新たな産業創出への対応
- ⑥ 魅力ある文化の創造

## 7. びわこ文化公園都市の将来像と方向性

- びわこ文化公園都市は、「土地利用」の観点からゾーニングを基に施設整備を行ってきたが、強み、課題、取り巻く社会状況等を踏まえ、次のステップとして、今後は、整備、蓄積された施設・機関が相互に機能を高め合う「機能連携」の観点へ主眼をシフトすることが必要。
- この基本的な考え方に立ち、3つの検討の視点から、取り巻く社会状況や経済状況の中で、課題の解決を図りながら、強みを活かしていく目指すべき5つの将来像を設定。 ～『土地利用』から『機能連携』へ～



### <取組みの方向性>

短期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○施設や資源を活かした幅広い県民の利用や参加を促進する取組の実施</li> <li>○駐車場や路線バスの利便性向上に向けた取組の実施</li> <li>○安全性、快適性の向上に向けた取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「県立近代美術館」の機能の充実・強化に向けた取組の実施</li> <li>○文化関係施設と各施設の連携による子どもや若者の学びや成長を育む取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各大学等の研究シーズと事業者等のニーズとの接続を促進する取組の実施</li> <li>○3大学を核とした産業振興につながる研究開発に向けた取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史資源、樹林地の保存、活用の促進に向けた取組の実施</li> <li>○県民、NPO等が参画する、施設や樹林地の維持・運営に向けた取組の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康・スポーツ、医療・福祉エリアとしての安全性・快適性の向上と利活用促進に向けた取組の実施</li> <li>○災害時における施設間連携等の促進に向けた取組の実施</li> </ul>
中長期	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域内外のアクセス性の向上に向けた取組の検討</li> <li>○多様な資源を活かしたツーリズムなど新たな取組の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「県立図書館」等の機能の充実・強化に向けた取組の検討</li> <li>○滋賀らしい文化・芸術の創造・発信を促進する取組の検討</li> <li>○次世代を育成するための取組の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○産学官金民が連携した研究成果の事業化の促進に向けた検討</li> <li>○各施設等における新エネルギーの取組促進に向けた検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○多様な主体が参画する協働による施設等の維持・運営を進めていくための仕組み(プラットフォーム)の検討</li> <li>○地域の資源を次世代に受け継いでいくための新たな仕組みの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自然環境や医療・福祉施設等を活かした心身の健康維持・増進の促進に向けた検討</li> <li>○災害時における救援、救護、支援等に関するさらなる機能の検討</li> </ul>

### 5つの将来像の実現を支える取組み

- 短期:**
- 立地施設による「(仮)施設連携協議会」の設置(情報交換・共有、連携等)
  - 将来像の実現に向けた、県、大津市、草津市による「(仮)推進調整会議」の設置(情報共有、調整等)
  - 具体的なテーマに基づく、立地施設と地域、県民、企業等との連携を促進する取組の実施
- 中長期:**
- 多様な主体の連携によるまちづくりを進める全体マネジメントの仕組みの検討
  - 地域内の低利用地、未利用地の利活用に向けた具体的な検討

## 8. 将来像の実現に向けて期待される各主体の役割

- 県** → 将来像実現への取組の推進・調整、県施設の安全性の向上等
- 市** → 将来像実現への取組の推進・調整、関連事業推進等
- 立地施設・大学** → 連携による取組の実施、周辺地域との連携推進等
- 企業等** → 施設の取組への参画・支援、産学官金民連携の取組促進等
- 県民** → 積極的な施設利活用、施設・樹林地等の維持・運営への参画等
- 共通事項(関わるすべての主体)** → 他主体との連携推進、当地の魅力向上、環境の維持向上への貢献等

## 9. 将来像の実現に向けて

- 5つの将来像は、それぞれが独立したものではなく、多面的に相互に関連しながら、あるいは紡ぎながら展開、発展されていくイメージ。
- 実現に向けては、県や大津市、草津市、立地25施設、周辺の地域、県民、企業、団体など幅広い主体が関わり、連携、協力しながら、努力を重ねていくことが必要。